

THE ROOF



藤島武二《かくの花》
1901(明治34)年 油彩・キャンバス

Contents

- 「くまのパディントン™展」ーあの紳士な子グマが、ロンドンから郡山にやってくる！ー
- 「志村ふくみ展ー滋賀県立近代美術館コレクションを中心にー」
- 報告「フジフィルム・フォトコレクション展」／新収蔵作品
- 寄稿「ブリューゲル展」をふりかえって
- Report
- Information

くまの Paddington Bear™ パディントン展™

Paddington Bear™



「パディントン」シリーズは、イギリスを代表する児童文学です。40以上の言語に翻訳・出版されるとともに、絵本・アニメ・映画やぬいぐるみなど幅広い分野で展開されています。物語の主人公は、ダッフルコートに帽子をかぶったお茶目で紳士な子グマです。本展では、1958年の誕生から現在まで世界中で愛され続けているパディントンの魅力を、さまざまな作家による絵本や漫画の原画などを通して紹介します。

あの紳士な子グマが、
ロンドンから郡山にやってくる！

パディントンの世界にようこそ！
本や映画で、パディントンのことをよく知っている人も、あまり知らないという人も、この展覧会を見れば、きっとパディントンが大好きになりますよ。なにせ、愛すべき子グマなのですから。

イギリスを代表する児童文学「パディントン」シリーズは、1958年に作家マイケル・ボンド氏（1926―2017）によって誕生しました。そのきっかけは、妻へのクリスマス・プレゼントとして買ったクマのぬいぐるみでした。1956年のクリスマス・イヴに、彼はロンドンの店に売れ残った小さなクマのぬいぐるみに目がとまり、連れて帰ったのです。ボンド氏は当時パディントン駅（図1）の近くに住んでいたことから、そのぬいぐるみをパディントンと名づけました。そして、自分のちょっとした楽しみとして物語を書き始めたのです。なんと、1週間あまりで1冊の本が出来上がってしまったそうです。

ロンドンのパディントン駅で、ブラウン夫妻と出会いました。そして、駅名にちなんでパディントンと名づけられ、家族として迎えられるのです（図2）。パディントンはイギリスの生活になじもうと奮闘するのですが、いつもさまざまな騒動を起こしてしまいます。それでも、親切で礼儀正しい彼はいつしか街の人気者になっていきます。

ここで展覧会の内容についてご紹介しましょう。「第1章 パディントンの物語」では、パディントンやブラウン一家、そして物語に登場するイギリスの生活やロンドンの名所などをご紹介します。「第2章 パディントン誕生秘話」では、作家マイケル・ボンド氏が語るパディントン誕生を伝える映像や仕事道具、手紙など貴重な私物を展示します。「第3章 世界のパディントン」では、世界中で出版された絵本の原画（図3）や日本とパディントンの深いつながりについてご紹介します。「第4章 パディントン大活躍」では、アニメーション4コマ漫画の原画やパペットアニメの小道具、各国でつくられたぬいぐるみなどを展示します。「第5章 おわりに」では、2017年6月に亡くなったマイケル・ボンド氏のインタビュ映像（2016年12月撮影）によって作者のメッセージをご紹介します。

企画展

くまのパディントン展™ 2019/7/6（土）～9/8（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日

（7月15日、8月12日は開館、7月16日、8月13日休館）

観覧料：一般：800（640）円

高大学生・65歳以上：500（400）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館、毎日新聞社
 協賛：ニューカラー写真印刷
 後援：プリティッシュ・カウンシル
 協力：コピーライツアジア、（公財）東京子ども図書館、福音館書店、理論社、WAVE 出版、日本航空
 監修：松岡享子（東京子ども図書館名譽理事長）
 学術協力：三宅興子（梅花女子大学名譽教授）、河野芳英（大東文化大学教授）



1 現在のパディントン駅
写真：富岡進一



2 ペギー・フォートナム画
『くまのパディントン』の挿絵原画
1958年
Illustrated by Peggy Fortnum
© Paddington and Company Ltd 2019



3 フレッド・バンベリー画
絵本『パディントンのかいもの』の原画
1973年
Illustrated by Fred Banbery
© Estate of Fred Banbery/HarperCollins 2019

筆者は、このインタビューの取材のため、マイケル・ボンド氏を訪ねました。椅子に腰かけておられたボンド氏はとても温かく迎えてくださいました。写真撮影のため、パディントンのぬいぐるみを持ったボンド氏の姿は、まるで愛する我が子を優しく抱いているようでした。かつてBBC（英国放送協会）のカメラマンとして働いた経験のあるボンド氏は、カメラを向けた筆者に「それはどこのカメラですか？」などいろいろと興味深そうにお尋ねになりました。好奇心旺盛なパディントンの性格には、ボンド氏の性格がそのまま反映されているということに気づかされたエピソードです。

ボンド氏は第二次世界大戦の際、志願兵としてイギリス空軍に従軍した経験があります。心優しい夫婦と出会い、周囲の人々に温かく見守られながら成長するパディントンの物語には、ボンド氏の平和への思いが込められているのかもしれない。展覧会をご覧になった皆様の心のかなかに、パディントンが生き続けますように。

（富岡進一）



作家 マイケル・ボンド
(1926 - 2017)

右：アイバー・ウッド画
商品化のためのアイデア画、1970年代後半
Illustrated by Ivor Wood
© Paddington and Company Ltd 2019

左：R.W. アリー画
絵本『くまのパディントン』の原画、2007年
Illustrated by R.W. Alley Illustrations copyright
© R.W. Alley 2019



「くまのパディントン™展」関連イベント

講演会

イギリス児童文学の系譜：ナーサリー・ライムから「くまのパディントン」まで

日時：8月11日（日）午後2時～

講師：河野芳英さん（大東文化大学教授・本展学術協力者）

場所：多目的スタジオ（入場無料）

ギャラリートーク

日時：7月7日（日）、7月28日（日） 各日 午後2時～

場所：企画展示室（企画展チケットが必要です）

講師：当館学芸員

美術講座

「パディントンの魅力」

日時：7月14日（日）

午後2時～

講師：当館学芸員

場所：講義室（入場無料）

「パディントンとロンドン巡り」

日時：8月18日（日）

午後2時～

講師：当館学芸員

場所：講義室（入場無料）

グリーティング・イベント

パディントンが美術館にやってくる！

詳細については、当館HPにてお知らせします。



志村ふくみ展

— 滋賀県立近代美術館コレクションを中心に —



聖堂 1989年



紅襲(桜かさね) 1976年



茜 1967年



鈴虫 1959年

志村ふくみは、大正13年(1924)に医師の小野元澄、豊の次女として生まれた。32歳の時、離婚を機に、両親の住む滋賀県近江八幡に転居し、独自に染めと織りを学び、以来、染織家としてひたむきに創作活動を続けてきた。平成2年(1990)には重要無形文化財「つむぎ細織」保持者の認定を受け、平成27年(2015)には文化勲章を受章し、90歳代半ばとなる現在も、その創作意欲と思索する姿勢は変わっていない。

志村は文筆家としても才能を発揮し、『一色一生』(1982年 翌年、大佛次郎賞受賞)、『語りかける花』(1993年 日本エッセイスト・クラブ賞)など、自らの仕事や自然との関わりを通して体感、直観したことを、味わい深い言葉や文章で記し、多くの人を魅了し続けている。

志村の作品は、自然界における色の摂理と不思議、日本文化に対する深い考察に支えられている。植物染色、糸糸、平織りという素朴で伝統的な素材、技術を徹底して追求し、詩想あふれる多彩なテーマと豊かな色彩、そして物事の核心に触れる言葉を調和させた独自のものである。

滋賀県立近代美術館は、購入や寄贈などにより、志村ふくみの作品を多数所蔵している。志村ふくみの活動を30年以上にわたって見続けてきた佐久間幸子という一人の女性のコレクションが核となっている。本展はこの作品群と、志村自身の所蔵による重要な作品を中心とした約100点によって、染織家として世に出た昭和32年(1957)から近年にいたる志村の歩みを辿る。染織界に新たな地平を切り開き、細織の作品を芸術の域にまで高めた、手仕事の力と魅力を堪能できるまたとない機会となることだろう。

(佐治ゆかり)

「志村ふくみ展 関連イベント」

講演会「志村ふくみの作風の展開」

日時：10月13日(日) 午後2時～

講師：佐治ゆかり(当館館長)

場所：多目的スタジオ

ギャラリートーク

日時：10月5日(土)、26日(土) 各日 午後2時～

講師：佐治ゆかり(当館館長)

場所：企画展示室(企画展チケットが必要です)

企画展

志村ふくみ展 — 滋賀県立近代美術館コレクションを中心に —

2019/9/21(土)～11/4(月・休)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日

(9月23日、10月14日、11月4日は開館、9月24日、10月15日休館)

観覧料：一般：1000(800)円

高大学生・65歳以上：800(640)円

※()内は20名以上の団体料金

中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催：郡山市立美術館、

NHKプラネット東北

特別協力：滋賀県立近代美術館

制作協力：NHKプロモーション

報告
フジフィルム・フォトコレクション展
日本の写真史を飾った写真家の「私の一枚」

日本の写真史を彩る写真家101人の代表作それぞれ1点、101枚の写真が展示室に並びました。幕末・明治に滞日し当時の風景や風俗を記録したフェリーチェ・ベアトをはじめ、上野彦馬、下岡蓮杖の日本最初期の写真、横浜写真と呼ばれる日下部金兵衛らの手彩色が美しい写真が続きます。いかにも日本らしい情景に彩が加えられた横浜写真は、外国人の土産物として喜ばれました。

「れですか」と選んでもらったその一枚に選んだ作品は…？色んな視点から楽しむことのできるコレクション、すべてが主役の101点を通して、日本の写真文化の奥深さ、写真表現の味わい深さを堪能していただけたことと思います。(田中有沙子)

カメラ機材や感光材料の開発により撮影とプリントの自由度が増すと、写真家はそれぞれの表現を模索します。絵画的な美の追求、対象の素の姿を捉えるリアリズム、モチーフや構図の面白さの演出、自然の一瞬を切り取った写真など。心に刺さる1枚が必ず見つかるバリエーションの豊かさです。作品は全て銀塩プリントで、印画紙に表された手触りに写真家一人一人の作風が切実に感じられます。

富士フィルム株式会社がコレクションを収集する中で、写真家ご本人に「あなたの1枚はど

鹿島清兵衛《ボン太》
1895年頃



星野道夫
《夕暮れの河を渡るカリーブ》
1988年頃



フジフィルム・フォトコレクション展
日本の写真史を飾った写真家の「私の一枚」
会期：2019/4/20(土)～6/23(日)

平成30年度

新たに作品が
収蔵されました

平成30年度、新たな収蔵品が加わりました。購入作品としては、イギリス現代彫刻界を代表するトニー・クラッグ(1949年生まれ)の彫刻2点、明治の近代洋画で天才と謳われた五姓田義松(1855-1915)の油彩画と素描各1点、イギリスで活躍した画家牧野義雄(1869-1956)の水彩画2点、そして東京美術学校で学んだ三春町出身の鎌田正蔵ら同級生とともにグループ《で活動した加藤太郎(1915-1945)の木版画3点の以上9点です。また、

加藤太郎の油彩画1点と木版画1点、素描2点を長谷川保裕様、郡山市出身のガラス工芸作家佐藤潤四郎(1907-1988)のガラス作品1点を林王健治様、同じくガラス作品4点、陶板作品4点、掛軸4点を福永香様、イギリスと日本の文化の懸け橋ともなった陶芸家バーナード・リーチ(1887-1979)の水彩画1点を株式会社名古屋画廊様からご寄贈いただきました。

以上の中から、牧野義雄、加藤太郎、佐藤潤四郎の作品を7月21日までの今年度第1回常設展示室において展示していきますが、それ以外の作品も順次展示していきます。

(菅野洋人)



加藤太郎《無題》木版・紙
長谷川保裕氏寄贈



佐藤潤四郎《リュトン》
ガラス/宙吹・グラヴユール
福永香氏寄贈

表紙の
作品



藤島武二
《がくの花》

1901(明治34)年
油彩・キャンバス
66.7×45.4cm
平成29年度収蔵

藤島武二は鹿児島に生まれ、明治末から昭和期にかけて活躍した洋画家です。長年、東京美術学校教授として後進の育成にあたり、日本画壇を牽引しました。「がくの花」とは額アジサイの別名です。草花は藤島が好んだモチーフのひとつで、本作品は外光派的表現が特徴的な彼の初期作品の貴重な作例です。

寄稿

「ブリューゲル展」をふりかえって

ヨースト・クラルト
(郡山市国際交流員)

寒さで枯れた柳が並ぶ平野に立ち込める霧を透かして、遠くに教会の塔が見えます。これはブリューゲル展の中でもっとも私の心を掴んだ風景でした。

今年1月から3月にかけて、郡山市立美術館でブリューゲル展が開催されると聞いた時、私はオランダ人としてとても嬉しかったです。ブリューゲル家の出身地は現在のオランダの南部とベルギー北部のフランドル地域で、どちらの国も自分たちの国が生んだ画家としたいぐらい彼らは美術界で偉大な一族です。だからこそ、オランダのホストタウンとして登録された郡山市にはピッタリの企画展だと思いました。

郡山在住のオランダ人として、2月9日にピーテル・ブリューゲル2世の《鳥罾》という作品に焦点を当て、オランダのスケート文化などを含む「冬の過ごし方」について美術講座をする機会をいた

だきました(左頁)。しかし驚いたことに、アイススケート好きの典型的なオランダ人の私にとって、《鳥罾》に描かれている楽しくスケートする人々の風景よりも懐かしく感じたのは、遠くに見える隣の町の風景でした。



ピーテル・ブリューゲル2世 《鳥罾》 1601年 Private Collection

土地の26%が海拔より低くて、丘も登らずに東西を横断できるオランダでは、町の郊外から隣町の教会まで見渡せることが決して珍しいことはありません。私自身、オランダ西部の町に生まれ育ち、このような景色が当たり前でした。2009年に初めて丘や山が数多く広がる日本を訪れた際には、オランダの地形が世界的にみれば当たり前なことではないと実感しました。

美術講座では、この風景を通じてオランダの地形や風景をはじめ、冬の過ごし方等についてお話をさせていただきました。確かに、《鳥罾》に描かれたように、オランダにおいてスケート文化は特別なものだと思います。冬季オリンピックのスケート部門におけるオランダ勢の活躍、凍った運河でスケートする習慣、200キロメートルにも及ぶ世界最大のスケートマラソンなど。日本でも数少ない400メートルトラックがある磐梯熱海スケート場は、郡山市とオランダの新たなつながりのきっかけにもなれると思います。

最後に、サンタクロースの原型と考えられている「シンタクラス」を祝う行事や、年越しにドーナツに似たお菓子を食べたり、自分で花火を上げたりする習慣などを紹介しましたが、おそらく殆どの聴講者は初めて聞いたのではないかと思います。九州ぐらゐの面積に過ぎないオランダの文化に触れる機会は少ないと

思われますが、郡山市には、どこよりもオランダに親しみを持つ人が多いと思います。安積疏水の監修に務めたファン・ドールン技師の活躍は、郡山の発展だけではなく、ブルメン市との姉妹都市関係やホストタウンの登録ももたらしました。これからも、ブリューゲル展のような素晴らしい展示や文化交流が一層増えるといいですね。



ブリューゲル展 画家一族150年の系譜

会期：2019/1/11(金)～3/31(日)

Report

第10回 風土記の空

2018年11月20日(火)～12月24日(月・休)

場所：美術館ロビー 主催：郡山市立美術館

郡山市内の中学校美術部の活動の中で制作された作品を紹介しました。中学生が自分自身で作品の額装や展示を行う体験も実施し、それぞれの個性あふれる感性豊かな作品が並びました。

参加校：日和田中学校、行健中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、緑ヶ丘中学校、小原田中学校



ワークショップ

初めての水墨画 墨と和紙で遊ぶ、描く、表現する

2018年12月1日(土)、2日(日)

講師：荒井恵子さん(画家)

場所：創作スタジオ

墨、和紙、筆の性質について学んだのち、丸と線のさまざまな描き方を体験しながら身につけ、素材の異なるものの描き分けにも挑戦しました。



木彫体験 犬を彫ろう!

2018年12月22日(土)、23日(日)

講師：馬場稔郎さん(木彫家)

場所：創作スタジオ

絵の角材から、のこぎりと彫刻刀を使って犬を制作しました。最後に思い思いに着彩し、オリジナルの彫刻を完成させました。



アート・テーク

2018年度第4回

「中世ヨーロッパの色 ブリューゲル作品に探る」

2019年1月26日(土)

講師：佐治ゆかり(当館館長)

場所：多目的スタジオ

当時の農民たちの姿が生き生きと描かれたブリューゲル一族の絵画。丹念に描き込まれた美しい色の衣服などから当時の色の秘密を探りました。



2019年度第1回

「脊椎動物と霊長類の色覚の由来から見たヒト色覚の多様性の意味」

2019年5月25日(土)

特別講師：河村正二さん

(東京大学大学院教授)

場所：多目的スタジオ

鳥類、魚類、霊長類の色覚の違いや、ヒトが3色型色覚を獲得する進化の過程についてお話いただきました。



ブリューゲル展関連

ブリューゲル展ガイドツアー

2019年1月15日(火)

講師：山田五郎さん(評論家)

場所：企画展示室

父の仕事を忠実に継いだ長男、自由にオリジナル作品を描いた次男を対比しながら、山田さんの楽しいトークで画家の一族や作品への理解や興味が一層深まる内容でした。



美術講座「オランダの冬の暮らし」

2019年2月9日(土)

講師：ヨースト・クラルトさん

(郡山市国際交流員)

場所：多目的スタジオ

ブリューゲル展出品作に描かれた風景や風俗について現代のオランダに通じるものを紹介し、作品がより身近に感じられる楽しい内容でした。



レクチャーコンサート

2019年3月1日(金)

出演：圓谷俊貴さん(チェンバロ、レクチャー)

ノエ・乾さん(ヴァイオリン)

場所：郡山市中央公民館 多目的ホール

ブリューゲルの時代の音楽、楽器について解説、チェンバロの特徴についても紹介しました。本県ゆかりの若手演奏家ふたりによる魅力あふれるコンサートになりました。



ミュージアム・コンサート

「圓谷俊貴 チェンバロの夕べ」

2019年3月27日(水)

出演：圓谷俊貴さん(チェンバロ、レクチャー)

村松稔之さん(カウンターテナー)

久保田彰さん(チェンバロ製作者)

場所：階段ロビー

チェンバロとカウンターテナーの美しいハーモニーが響きました。チェンバロ製作の視点からも解説していただきました。



第18回 風土記の丘の美術展 —郡山市内の小学生による作品展—

会期：7月15日（月・祝）～8月18日（日）

場所：美術館ロビー（入場無料）

主催：郡山市立美術館・郡山市小学校造形教育研究会

市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示します。
展覧会とあわせてお楽しみください。

第1期 7月15日（月・祝）～7月21日（日）
安積第一、安積第二、安積第三、永盛、守山、
御代田、高瀬、谷田川、田母神、栃山神、橘、
小原田、桜

第2期 7月23日（火）～7月28日（日）
日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、
行徳、富田、富田東、西田学園

第3期 7月30日（火）～8月4日（日）
柴宮、穂積、三和、多田野、多田野堀口分校、
河内、開成、薫、大槻、大成、朝日が丘、
ザベリオ学園

第4期 8月6日（火）～8月11日（日）
金透、芳山、芳賀、桃見台、赤木、白岩、東芳、
大島、緑ヶ丘第一、宮城、海老根、御館

第5期 8月12日（月・休）～8月18日（日）
片平、喜久田、熱海、熱海石筵分校、安子島、
湖南、富田西、桑野、小山田

[夏休み公開ワークショップ]

第14回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！

小中学校の先生と一緒に、図工と美術の授業を体験。
いろいろなテーマのコーナーでお待ちしています。

日時：8月3日（土） 午前の部 11:00～12:00
午後の部 14:00～15:00

場所：多目的スタジオ（入場無料）

講師：小中学校の先生

定員：各コーナーとも先着 15名程度

申込不要



郡山市立美術館
文化講座

アート・テーク

2019年度第2回「ジャパンプルー」

日時：7月27日（土）14:00～15:30

特別講師：福本潮子さん（染色家）

場所：多目的スタジオ（入場無料）

申込不要



2019年度第3回「色香と艶の日本文化」

日時：9月28日（土）14:00～15:30

特別講師：井上章一さん

（国際日本文化研究センター教授）

場所：多目的スタジオ（入場無料）

申込不要



企画展関連イベントにつきましては3、4ページをご覧ください。

常設展示

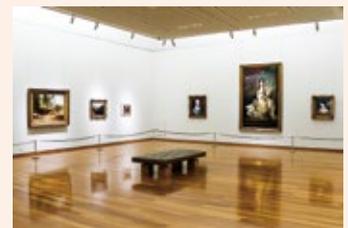
※7月23日（火）は展示替えのため常設展示室はご覧になれません。

7月21日（日）まで

- 1 ホガース vs アカデミシャン
- 2 日本水彩画の魅力
- 3 加藤太郎とその周辺
- 4 ヘンリー・ムーアの版画／
佐藤潤四郎・タンブラーと新収蔵作品を中心に

7月24日（水）～10月20日（日）

- 1 小特集：フランク・ブランギン
- 2 日本近代美術と文学性
- 3 郡山と彫刻
- 4 挿絵の魅力／
くらしを彩るデザイン



TOPICS



juju
130 CAFE
ジュジュイチサンマルカフェ

営業時間／11:00-17:00
電話／024-942-2250

＼お持ち帰りも出来ます／

酪王のアイスクリーム（牛乳/カフェオレ各350円）

福島県民誰もが知る、酪農家が丹精込めて「酪王牛乳」の美味しさが十分に味わえる牛乳屋さんのアイスクリーム。ミルクをたっぷり使って贅沢に仕上げた口当たり濃厚で新鮮な絞りとてミルクの香りが楽しめる『酪王牛乳』と、コク深くクリーミーな美味しさが大人気の『酪王カフェオレ』の2種類をご用意いたしております。

メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

